

まずはここから

2015年7月28日 参議院答弁書

(参考資料①)

現時点において、政府として
原子力発電所の新增設及びリプレースは
想定していない。

2009年4月準備工事開始
2011年3月準備工事一時中断
(参考資料②)

上関原発

は、どっからどう見ても新設でしょう・・・

なのに、なぜこの計画がしぶとく生き残っているのか？
中国電力の経営計画から
上関原発に関する記述の移り変わりを見てみます。

2011年度

(参考資料③)

震災直後

「東日本大震災を受けての当社の対応」より p.2

現在準備工事中の上関原子力発電所についても、
このたびの事故から得られる知見に
確実に対応してまいります。

2012年度

(参考資料③)

「はじめに」より p.1

当社は、
原子力がこれからも必要な電源であると考えており、
(中略)

上関における新規原子力発電所の開発推進に向け、
地域の皆様のご理解を得ながら取り組んでまいります。

参考資料

- ①参議院HP 第189国会質問主意書 提出番号209
<http://www.sangiin.go.jp/japanese/joho1/kousei/syuisyo/189/syuisyo.htm>
- ②中国電力HP 上関原発準備工事の状況
http://www.energia.co.jp/atom/kami_jyunbi2.html
- ③中国電力HP 経営計画の概要
<http://www.energia.co.jp/ir/irkeiei/gaiyou.html>

2013年度

(参考資料③)

「電気料金水準の維持と供給力確保に向けた平成25年度の重点的取り組み」より p.4

**島根・上関の両地点において、
新たな知見にも適切に対応しながら
安全確保に万全を期すことにより、
皆さまに安心していただける発電所となるよう
引き続き取り組んでいきます。**



2013年7月 新規制基準 施行

2014年度

(参考資料③)

「平成26年度の重点的取り組み」より p.7

2013年度と
同じ



2014年4月 エネルギー基本計画 閣議決定

2015年度

(参考資料③)

「平成27年度の重点的取り組み」より p.13

**温室効果ガスの削減を継続的に進めていくためには
再生可能エネルギーの拡大とともに、
原子力を一定比率維持していく必要があります。
それには、経年化した原子力発電所に代わる
安全性に一層優れた新規原子力発電所開発を
計画的に進めていくことが必要です。
このたびの島根1号の廃止を考慮すると、
島根3号の早期運転開始はもとより、
新規原子力である上関原子力発電所の開発は
これまで以上に重要な経営課題であり、
早期に着手できるよう、引き続き取り組んでいきます。**



2015年7月 長期エネルギー需給見通し 決定

2016年度

(参考資料③)

「原子力発電に関する取り組み」より p.9

2015年度と
同じ

最後に一言

冒頭の文書訂正です。

「上関原発に関する記述の移り変わり」を見ると書きましたが、「移り変わ」ってませんでした。。

中国電力は上関を明確に「新規原子力」と言っています。

そして震災直後から一貫して、上関原発の計画推進という立場はふれていません。

なのに、安倍政権は「現時点において新增設・リプレイスは想定していない」と言います。

目の前に『新設する』って言っている人がいるのに、『新設は想定していない』と平気で言える理屈が全くわかりません。

そして、この理屈が通ってしまう今の空気に絶望感すら感じます。

『現時点において』というの相当に国民をバカにした表現です。これは『未来は知らない』と同義です。

近い将来、新設を認めることになっても、誰も嘘はついてないので責任はどこにもない。。。もう言葉がありません。